

2008年度東京災害ボランティアネットワーク事業計画

【重点課題】

■2008年度、東京災害ボランティアネットワークは、首都圏大災害に向けた具体的な対応策を検討していきます

- ・東京で大災害が発生することが避けられないことを踏まえ、東災ボ内団体の社会的資源の確認と具体的な対応策を検討します
- ・災害時に想定される具体的課題に対し、市民と関係機関、民間組織・団体の協働の訓練を実施します

【予定されている事業】

首都圏統一帰宅困難者対応訓練

- (1).実施期日：2008年9月中（9月23日(祝)を提案したい)
- (2).実施コース：距離にして20km程度 4コースの同時実施を提案
なお、詳細については、実行委員会内で決定する
東京→千葉コース
東京→埼玉コース
東京→神奈川コース
東京→多摩コース
東京出発候補地：日比谷公園
- (3).参加人員：徒歩帰宅訓練8000名 沿道支援2000名
- (4).実行委員会の設立：2008年5月中に設立予定
- (5).事業財政：実行委員会での公募方式
- (6).実行体制：実行体制については、今後実行委員会設立後、協議・確認する



大都市東京の防災課題の中でも、帰宅困難者課題は、最重要課題の一つとして考えられています
(写真：2007年首都圏統一帰宅困難者対応訓練)

■地域や組織・団体の防災力向上に向けて取り組みます

- ・地域や組織・団体といった「面として」の防災力向上に向け、市民講座や研修などを開催します
- ・地域や組織・団体の講座・研修に講師派遣・プログラム提供をおこなうことで、防災力向上に向けた取り組みを実施します

- ◇ 都道府県・市区町村社会福祉協議会での災害ボランティア講座・研修等
- ◇ 町会・自治会における防災市民講座等
- ◇ 東災ボ参加団体内外の各団体における災害ボランティア研修・講座、災害体験訓練等



対象・規模・地域(団体)特性に合わせた市民プログラムを実施する必要があります。これまでも、プログラム実施の際には、綿密な打ち合わせがおこなわれています。
(写真：港区立台場児童館防災まち歩き)

■広く市民の方々の防災・減災意識啓蒙に向けて取り組みます

- ・より多くの様々な主体が参画・協働できるイベント型啓蒙活動やシンポジウムを実施します

【予定される事業】

◇1.17 イベントの開催

2009年1月17日は土曜日ということもあり、これまで以上に多くの方々の参加が見込めます。参加する方の気づきにつながるプログラムを実施していきます。

誰もが簡単に参加できる取り組みを目指しています。もちろん誰でもボランティアで参加できるようにも工夫が必要になります

(写真：2008年の1.17イベント)



■東災ボ参加団体、および関係団体との連携を深めます

- ・東京災害ボランティアネットワークは、想定される首都圏直下型地震の発生に備え、具体的な対応策の検討に着手します。

東災ボの参加団体の、特に全国ネットワークとして活動をされている団体を中心に、東京での巨大地震発生時に対して予想される組織・団体の対策、団体としての社会的役割、社会的資源(施設・人材・経験・財政等)に関して、団体間の連携という点から、協議の場を設立させていただき、東災ボ総体としての首都圏大災害に向けた具体的な対応策の検討をおこないます

- ・首都圏統一帰宅困難者の実施

都市災害発生時には様々な課題が表出します。その中でも重要な課題の一つが「帰宅困難者課題」です。東災ボは設立直後より、その具体的な対応訓練を多様な団体の皆様と共に「社会的実験」として取り組んできました。

本年は、その対象者数百万人を意識して、昨年度同様、他地域に跨る首都圏統一帰宅困難者対応訓練の実施に向け、努力します。

(実施に関する詳細は実行委員会内で決定します)

- ・行政・関係機関との連携を進める定期協議の設置に努力します

東京都は災害発生時には、東京都災害対策本部内に「ボランティア本部」を設置する等、「災害発生時対応マニュアル」を策定しています。それらの所管は東京都生活文化スポーツ局都民生活部となっており、東災ボの災害時ボランティア対応を構想すると同時に、東京都との災害時における連携のあり方を定期協議する場の設置に努力します。



TOSAIBO TIMES も編集委員会を立ち上げ、毎月の発行を目指しています。小さな会報誌ですが、参加団体に東災ボの活動を告知・報告していきます
(写真:リニューアルされた TIMES)

■運営体制の拡充を図ります

- ・ 東災ボの財政強化として、事業や会費・寄付収入の増加に向け東災ボ参加団体や関係機関に各種事業を提案します
- ・ 現在、事務局は常勤 2 名、非常勤 1 名の体制となっておりますが、常勤・非常勤を含めて事務局員の拡充を検討します

毎月開かれている事務局会議では、事業方針や事業の具体的な方法まで、様々な議論が交わされています



■三宅島を含む、被災地支援に取り組みます

- ・ 東京災害ボランティアネットワークは、三宅島支援センターの一員として、今年度も「みやけじまく風の家」の活動・運営に主体的に取り組みます。
- ・ 突発的に発生する災害に対し、東京災害ボランティアネットワークは、会員団体、および関係機関と連携して被災地支援・被災者支援に取り組みます。



みやけじまく風の家」運営だけではなく、交流や研修事業を通じて、また産業支援も視野に入れながら復興への道筋を考えていく必要があるかもしれません